

Letters



レターズ / 会員の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

みなさんが進学された際や、基金を卒業される際に給付される「橋本給付金」へお便りが寄せられています。この中から何通かご紹介いたします。

橋本給付金とは

交通遺児基金が設立された昭和55年、静岡県熱海市の病院で療養していた橋本むつさん(当時81歳)は、「交通遺児たちの勉強に役立ててください」と自分の不動産を処分した3億円を交通遺児育成基金に寄付してくださいました。そして、このご好意を末永く生かすために始まったのが「橋本給付金」です。

むつさんは「私は、人生の間にいろいろな人と出会ってきましたが、人には教育が一番です」とおっしゃっています。そのご遺志を受け継ぎ、今もお橋本給付金は多くの遺児たちの教育に役立っているのです。



愛知県豊明市

E・Kさん

このたびは、交通遺児育成基金の方々、そして何より橋本むつさんに育成給付金を頂き、心から感謝しています。

私の家族は、みんな元気に毎日を過ごしています。そして、私は高校に入学するにあたり、将来に向けて、歩き出そうとしています。今はまだ、スタートラインに立ったばかりなので、不安はたくさんありますが、家族という支えが私にはあるので、しっかりと歩き、大人へと近づいて行きたいと考えています。そして、家族みんなで助け合い、共に生きて行きたいです。

橋本むつさんのご厚意をむだにすることのないよう、精一杯頑張っていきます。本当にありがとうございました。

福岡県北九州市

M・Kさん

拝啓、本日、図書カードをいただきました。早いもので、娘が五才の時に主人を亡くし、今年の春には、中学生になります。

つらい事や、苦しい事は、数えきれない程ありましたが、一番の薬は、年月という時間と、いろいろな境遇の中でも、頑張っている人々が、たくさんいるという事を知った事です。

「どうして、私だけが…」という気持ちばかりでしたが、今は、娘と共に前向きに生きて行こうと思うようになりました。家族以外にも、娘の進学を祝ってくれる方がいることは、大変、うれしくはげみになりました。本当にありがとうございました。



広島県廿日市市

K・Kさん N・Kさん

育成給付金の存在により、不自由な生活になることがなかったのだと思っています。これからは、母を助けることができるよう努力したいです。

同封された図書カードで高価な専門書を買いました。本当に長い間の給付、ありがとうございました。

11年前の突然の事故で主人を亡くし、当時17才の娘と8才の息子が残されました。今、11年たち子供達はそれぞれの夢にむかい自分の足で歩むことが出来たのは交通遺児育成基金の心温まるお世話のおかげだと思っています。ありがとうございました。またお世話になりました。

愛知県岡崎市

M・Kさん

17年間育成給付金をいただきありがとうございました。給付金をいただいたおかげで希望した進路に進むことができ、今は一生懸命、英語の勉強に取り組んでいます。将来は外資系の仕事に就きたいと思っています。

今までありがとうございました。

岡山県岡山市

K・Kさん

いつもSmiles楽しみにしています。真っ先に読むのは、スマイルトークです。何も特技も自慢できることもない私は、好きな事を見つけ努力して認められている方々の思いや苦勞などとても興味深く感心しながら読ませてもらっています。我家の子供達は今春、高校と中学に入学します。将来の進路を考える上での良い参考になりそうです。やはり好きなこと、打ち込めることを見つけてほしいと願いながら何か力になりたいと思っています。

鹿児島県鹿児島市

H・Tさん M・Tさん

月日が経つのは早いもので、当時5歳だった私も19歳となり、専門学校へ通っています。

この先、交通ルールを守り、事故のないよう生活していきたいと思います。

長い間、本当にありがとうございました。

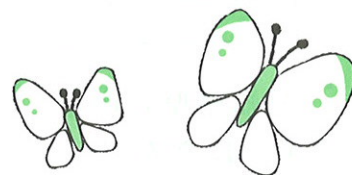
主人が亡くなって13年、多くの方々に助けられてこれまでやってこれたことに感謝しています。

息子が県外の専門学校に行きたいと言った時、育成基金のおかげ様で「いいよ」と送り出すことができました。親の心配をよそに何とかやっているみたいで安心しています。

これからは今までお世話になった分を少しずつでもお返しできるように親子共々頑張っていきます。ありがとうございました。

静岡県浜松市

Y・Aさん



前略 先日一番下の娘も19才となり、無事、育成基金を終了させていただき、ありがとうございました。

自営業で生命保険も加入しておらず、主人が亡くなったその日から生活に困る様な状況でしたが、幸い実家の両親や姉夫婦にたより、又、育成基金に加入したおかげで超低金利時代も変わることなく給付金を受け取ることが出来、生活の不安が少しでも減ったことで、子供たちや私にも笑顔が戻ってきました。おかげさまで子供たち3人とも、大学や専門学校に入ることができ、人並みの生活をさせていただくことが出来ました。これもひとえに財団法人の皆様はじめ、まわりの方々のおかげと感謝しております。

子供たちもまだまだ一人前とはいきませんが、これからは、私達が少しでも社会のお役に立てる様な生活を心がけていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。 草々